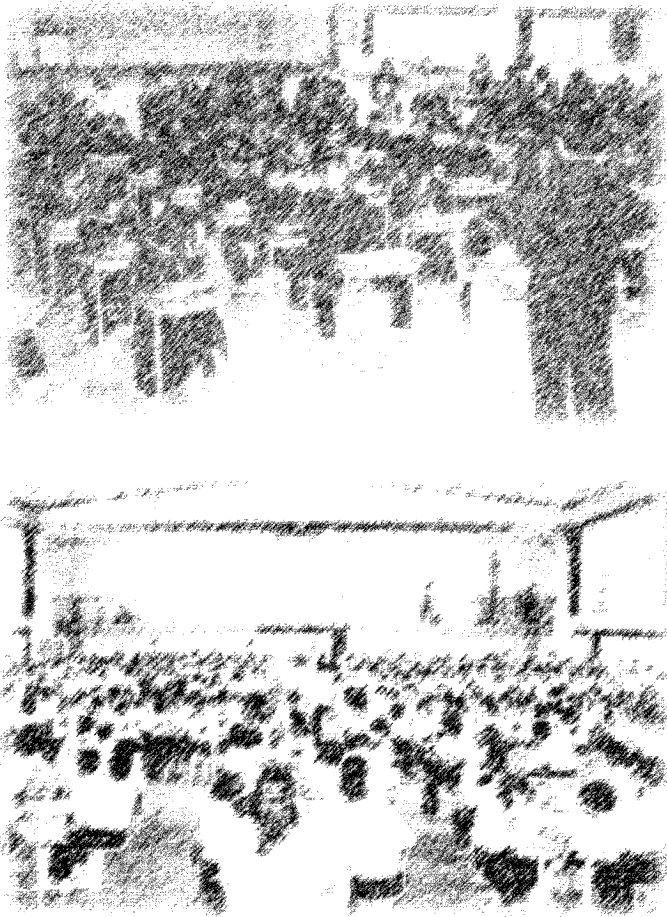


# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

1990年度にスタートした全体学習（学年5クラスで語り合う人権学習）

全体学習では、語り合いの公開授業をするクラスを他の4クラスが囲むように座り、授業者以外の教員は、一人一人の生徒に寄り添い、生徒の発言を支援します。この公開授業と、5クラス全員で語り合う全体授業、この2時間続けて実施する語り合いの人権学習を全体学習と呼ぶようになりました。



全体学習に取り組む私たち教師の中には、どうしてそこまでしなければならぬのかという発言もありました。

しかし、「とにかく実践を」という合言葉のもと、この取り組みはスタートしました。

1990年5月、私のクラス2年B組が資料「渋染一揆」について語り合う授業を実施しました。続いて、6月にC組が「夕やけがうつくしい」という資料について語り合いました。それらの授業の中で私たち教師が当初予想もなかった高まりが生まれていき、生徒の願いから全体学習は3回、4回と積み重ねられていき、すべてのクラスが1回は公開授業をしようということになっていきました。

12月、4回目の全体学習は、「私の目をみて!」という資料についての語り合いでした。この資料は、部落の生徒たちを心を大きく揺さぶっていきました。

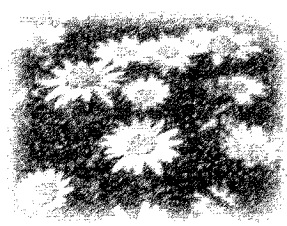
この全体学習で公開授業をしたD組にK子という生徒がいました。K子は、全体学習が実施された朝、担任に自分の揺れる思いを手紙にして手渡しました。その手紙は私たち教師集団に大きな衝撃を与えました。



## 《K子の手紙》

私、部落問題の授業をしているときに一番つらい思いをします。クラスの全員が私の方を見ているような気がします。また、思うことなんだけど、みんなは心の中で「自分は部落出身でなくてよかった」と思っていると思います。

私だって中学1年のときは他人事のように思っていました。でも、自分が部落出身だったと気づいたときは悲しかったです。そして、とてもつらくて心の中では、これから隠していこうとさえ思いました。これが差別意識なんですよ。私みたいに考えている子がいるから差別がなくなるんです。



この全体学習の最後に、K子は挙手をし、この手紙に込めた自分自身の思いを語り出します。そのK子の訴えは、新たな魂を全体学習に吹き込んでいきました。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」 うずしおランチ共同代表 森口 健司